様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　6 月　1 日現在

研究種目：　基盤研究（C）
研究期間：2005～2008
課題番号：１７５００４５５
研究課題名（和文）スポーツ集団における社会的アイデンティティについての基礎的研究

研究課題名（英文）　Primary researches of social identity in sport groups

研究代表者
阿江　美恵子（東京女子体育短期大学・保健体育学科・教授）
研究者番号　30192842

研究成果の概要：
スポーツ集団の状況を社会的アイデンティティという視点でとらえた．台湾と日本の大学バレーボール選手の比較では，日本と台湾の選手では集団への同一視プロセスに違いがあることがわかった．
体育系ではない多種多様な専門領域を有する総合大学に在籍する大学生を対象に所属集団の集団雰囲気を測定した結果では,女子の方がより主体的,積極的に集団の活動に関わっていた．甘い方向に流されがちだと評される現代の大学生の中にも，互いに切磋琢磨できる厳しい集団を求める大学生がいることが明らかとなった．
研究を進める上で，国によって「スポーツ集団」自体の存在が全く異なることも明らかとなった．したがって，スポーツ集団の一般的理論を我が国のスポーツ集団に直接当てはめることは適切ではないと思われた．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
17 年度	60 万円		60 万円
18 年度	70 万円		70 万円
19 年度	120 万円	36 万円	156 万円
20 年度	70 万円	21 万円	91 万円
年度			
総　計	320 万円	57 万円	377 万円

研究分野：体育・スポーツ心理学
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学
キーワード：スポーツ社会心理学，社会的アイデンティティ，スポーツ科学，国際比較

１．研究開始当初の背景

近年，集団行動の苦手な若者が増え，彼らの問題は集団的人間関係の体験欠如が一因となっていると考えられる．スポーツ集団が競技集団として発展し、集団体験の重要な環境であることも指摘できる．教育におけるスポーツ集団の衰退の兆しは，単に少子化だけの影響ではなく，競技スポーツ集団の特殊な風土に影響されているという背景がある．

この研究では，集団の環境を形成する重要な役割を指導者に置き，指導者の社会的アイデンティティが集団風土に大きな影響を及ぼしているという視点から分析を進めようとした．チームに所属した成員は、外集団に対して自集団所属の明確な意識を持つので、

外集団との比較で自分のチームに同化していく方向と、その集団で一番勢力を持つ指導者と同じ方向で同化していくという仮説をたて、そのことを明らかにすることが当初の計画であった.

２．研究の目的

スポーツチームに所属した成員は、外集団に対して自集団所属の明確な意識を持つので、外集団との比較で自分のチームに同化していく方向と、その集団で一番勢力を持つ指導者と同じ方向で同化していくという仮説をたてた．そこで，第一に個々の成員がチーム内でどのような基準に基づいて集団のアイデンティティに同化していくかを明らかにすることを初年度の目的とした.

次に，運動部集団は厳しい練習環境を強制する場合がしばしばあり、自分の集団をひいきするだけでなく、アンビバレントな感情も生じやすいと考えられる．2 年目は，バレーボールの集団に限定して、メンバーの社会的アイデンティティが集団風土に大きな影響を及ぼしているという視点から分析を進める．チームに所属した成員は、外集団に対して自集団所属の明確な意識を持つので、外集団との比較で自分のチームに同化していく方向と、その集団で一番勢力を持つ指導者と同じ方向で同化していくという仮説をたて、そのことを明らかにすることを目的とした.

3 年目は，スポーツ集団のあり方が大きく異なるヨーロッパ諸国のうちドイツを中心に調査を実施し、日本のスポーツ集団との集団意識の違いを明らかにすることを目的とした．海外の諸国は競技スポーツ選手の育成の方法が異なるので、集団所属自体の認識が異なると予想される．チームに対する意識もチームワークと team work は異なると推測される．質問紙調査のほかに、ドイツ国のスポーツ選手育成の構造的な資料を現地調査により収集し比較することを目的とした.

３．研究の方法

17～18 年度は (1)現在の大学スポーツ集団の様式の収集分類調査、(2)体育系大学生対象として，高校と大学の運動部集団についての感情の調査，(3) 一般大学の集団への帰属について、調査を行った.

19 年度はスポーツ集団のあり方が大きく異なるヨーロッパ諸国のうちドイツに調査を実施するため，英文で調査用紙を作成した．アジアの台湾の学生バレーボールチームにも調査を実施した.

４．研究成果

スポーツ集団の状況を社会的アイデンティティという視点でとらえることで，従来集団の心理的変数として考案された集団凝集性など集団の平均値で数量的に集団状況を表すのとは異なった集団状況をとらえることができると考えられた.

台湾のデータと日本のデータの比較では，大学バレーボール選手を対象とした結果，日本選手は道徳的価値を，台湾選手は能力的価値をより重視している傾向にあることがうかがえた．また，日本と台湾の選手では集団への同一視プロセスに違いがあることが考えられ，日本選手に合った社会的アイデンティティ尺度の検討が必要であることが示唆された.

体育系ではない多種多様な専門領域を有する総合大学に在籍する大学生を対象に所属集団の集団雰囲気を測定した結果では，女子の方がより主体的，積極的に集団の活動に関わっている様子が窺われた．また，所属集団の違いを検討すると，自他共に厳しいと認める体育会運動部や仕事の厳しさを感じているアルバイト先を自分が所属している集団と捉えている大学生は集団に自主的、積極的に関わることで達成感や満足感が得られ，それが所属集団を肯定的に評価することに繋がっているものと推察された．これは，ややともすると厳しさを避け，甘い方向に流されがちだと評される現代の大学生の中にも，互いに切磋琢磨できる厳しい集団を求める大学生がいることを認識させてくれる結果となった.

比較文化的な研究では，文化によって集団所属の重点が異なり，集団規範も異なることが明らかになった．また，研究を進める上で，国によって「スポーツ集団」自体の存在が全く異なることも明らかとなった．したがって，スポーツ集団の一般的理論を我が国のスポーツ集団に直接当てはめることは適切ではないと思われる．そのような視点から，スポーツ集団についての研究を検討しなおすことが重要だと思われた.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

１．遠藤俊郎、下川浩一、安田貢、布施洋、袴田敦士、伊藤潤二（2009）「チームスポーツにおける集団規範　～特にバレーボールについて～」山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター　センター研究紀要教育実践学研究　第 14 号　2009 年

２．阿江美恵子、遠藤俊郎（山梨大学)三宅紀

子（首都大学東京）(2009)　スポーツにおける社会的アイデンティティの文献概観（英文1985～2005 年に限定)、東京女子体育大学東京女子体育短期大学紀要第 44 号、77-85. 2009 年.

３．遠藤俊郎、下川浩一（2009）社会的アイデンティティの研究に関する報告書，スポーツ集団における社会的アイデンティティについての基礎的研究，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）平成 17 年度～20 年度研究報告書，2009，3 月.

４．三宅紀子（2009）一般大学生の社会的アイデンティティに関する研究，ポーツ集団における社会的アイデンティティについての基礎的研究，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）平成 17 年度～20 年度研究報告書，2009，3 月.

〔学会発表〕(計　7　件)

１．阿江美恵子、遠藤俊郎、三宅紀子（2006）「スポーツ集団の社会的アイデンティティについて　－高校と大学の集団イメージの違い」　日本スポーツ心理学会第 33 回大会研究発表抄録集 192-193、ポスター発表 12 月 7-10、那覇市

２．下川浩一、安田貢、遠藤俊郎、阿江美恵子、三宅紀子（2007）「バレーボールにおける社会的アイデンティティ　」日本体育学会第 58 回大会予稿集　p.173、ポスター発表、9 月 5-7 日、神戸市.

３．Ae, M., T. Endo , and N. Miyake（2007）Social identity in sports team-image difference between high school teams and college-teams.　Joint Congress 2007 SEA Games & ASEAN Para Games Scientific Congress and 5th Bangkok ASPASP International Congress on Sport Psychology,　Oral presentation, 12 月 1-4、Bangkok, Thailand.

4．T, Endo. , M, Ae. , N, Miyake. , K, Shimokawa. , M, Yasuda. (2007) Consideration about the Group Norm and the Social Identity in Varsity Volleyball Players. 2007 SEA Games & ASEAN Para Games Scientific Congress and 5th Bangkok ASPASP International Congress on Sport Psychology. 586-588. 12 月 1-4 日、Bangkok, Thailand.

５．Ae, M. Problem produced from fusion of physical education and a competitive sport － Sport scholarship students at high school （2008）FIEP World congress 2008、Poster presentation　8 月 6-9　フィンランド　ビエルマキ市

6. 阿江美恵子、遠藤俊郎、三宅紀子（2008）スポーツ特待生制度についての当事者の認識と社会的アイデンティティ、日本スポーツ心理学会第 35 回記念大会発表抄録集 60-61、口頭発表、11 月 14-16、中京大学名古屋キャンパス.

７．下川浩一(山梨大学大学院)、遠藤俊郎(山梨大学)、安田貢、布施洋、袴田敦士(山梨大学大学院)「バレーボールにおける集団規範の国際比較に関する研究　～日本と台湾における大学運動部について～」
第 14 回バレーボール学会　　2009 年 2 月 28-3 月 1 日　抄録集　p.23

〔図書〕(計　0　件)

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計 0　件）

〔その他〕

６．研究組織

(1)研究代表者

阿江　美恵子（AE　MIEKO）
東京女子体育短期大学保健体育学科・教授
研究者番号：30192842

(2)研究分担者

遠藤　俊郎（ENDO　TOSHIRO）
山梨大学教育人間科学部・教授
研究者番号：20135106

三宅　紀子（MIYAKE　NORIKO）
首都大学東京人間健康科学研究科・助教
研究者番号：60137023

(3)連携研究者

(4)研究協力者

下川　浩一(SHIMOKAWA　KOUICHI)
山梨大学教育学研究科保健体育専修